

■浦上玉堂 文人画家。趣味に溺れて罷免された後、自由人として、天真爛漫奔放な傑作を次々と描いた。

うらかみぎよくどう

徳川吉宗隠居1745＝ 岡山池田藩の支藩鴨方藩士の家に生まれる。

徳川吉宗没・1751＝ 6歳：父が没し家督を継ぐ。母一人子一人の孤独な境涯にあった。

薩摩藩工事・1753＝ 8歳：「小学」を読む。

山脇東洋解剖1754＝ 9歳：藩校へ入学。

大岡忠光没・1760＝15歳：藩校において大生となり、藩主政香の御側詰となる。

・・・・・・1763＝18歳：

君政香は玉堂より一つ年上で、当時の人々に水魚の交わりといわれたが、

久留米藩工事1768＝23歳：政香が死去。

玉堂は政香の抱いた政治の理想を継承しつつ、

田沼意次老中1772＝27歳：

解体新書・・1774＝29歳：江戸在勤となる。玉田黙翁に師事して儒学・医学を学ぶ。

以後、たびたび岡山と江戸を往来。公務のかたわら琴や詩を学び、谷文晁などと結社して絵を学ぶ。

源内獄中死・1779＝34歳：長男誕生。明の顧元昭作の古琴を得た。これに「玉堂清韻」の銘があり、自らを「玉堂琴士」と称するほどに琴の音楽に耽溺していく。

・・・・・・1781＝36歳：大目付の地位につくが、

仕官の間、書画や作詩、琴などにふけり、藩務がおろそかになり、

蝦夷初調査・1785＝40歳：次男誕生。

田沼意次失脚1786＝41歳：琴をつくる。母が死去。\*現存最古の「晴溪釣艇図」で、画家としての力も見られ、

寛政改革始・1787＝42歳：「南山寿巻」。職務怠慢で、大目付を罷免される。

初の横綱・・1789＝44歳：琴をつくる。「玉堂琴譜」を京都で刊行。

異学の禁・・1790＝45歳：

ラスマン来日・1792＝47歳：「山中結廬図」。妻が死去すると、

松平定信引退1793＝48歳：いっさいの官職を退き、

ワソダ 正月・1794＝49歳：\*2人の息子を連れて出奔し、旅先から脱藩を届け出。詩集「玉堂琴士集」を高松で刊行。

以後自由人として各地を遊歴し、漂泊の人となる。

脱藩後の漂泊の足跡は九州から奥羽にまで及んだ。

蝦夷地直轄始1799＝54歳：

既に詩や琴で名声を得ており、各地で盛んに著名人と交わるうち、

いづノ来航・1804＝59歳：「群峯仙館図」。

青洲麻醉手術1805＝60歳：「江山覓句図」を南畝に贈る。

フェートン号事件 1808＝63歳：飛騨の田中大秀、赤田臥牛を訪ねた折、「曳杖野橋図」「風雨釣艇図」「雨後観山図」。

浮世風呂・・1809＝64歳：金沢の寺島応養、富田景周を訪ねた折、「山中読書図」「緑染林臯図」など、絵画において、

高田屋拿捕・1812＝67歳：讃岐での追善展観に「米法山水図」を出品。「山高水長図」。\*傑作を次々生み出すようになり、現存する著名な作品もこれ以降、没年までの間に制作されている。

黒住教・・1814＝69歳：「林間閑事図」「野橋抱琴図」「秋山晚晴図」「清涼馨香図」。

・・・・・・1815＝70歳：「山廻路転図」「琴写潤泉図」「野橋曳杖図」。

杉田玄白没・1817＝72歳：「鼓琴余事帖」「密林軼雲図」「煙雨模糊図」。

水野忠成老中1818＝73歳：「秋色半分図」「夏雲欲晴図」。

群書類従完結1819＝74歳：「懸崖絶壁図」「耳得為声図」。

・・・・・・1820＝75歳：京都の自宅で、没した。